



題字:牛窪梧十氏



## 人と猫が幸せに暮らせる街に

### さやま猫の会

#### プロフィール

2015年4月発足。飼い主のいない猫ゼロを目指し、市内を中心に飼い主のいない猫のTNR\*を実施している動物福祉団体。

※会の円滑な活動を継続するため、会員情報の掲載は差し控えています

市内でも時折見掛ける野良猫や放し飼いの猫の姿。最近あまり見かけなくなつたな、と思われた方もいるのではないでしょう。これらは、猫を捕獲し不妊手術を行い、元の場所に戻すTNR\*を積極的に行っているためです。「飼い主のいない猫ゼロ」を目指して市内で活動をしている団体の一つが、「さやま猫の会」(以下、「会」という)です。

かわいらしい姿からペットとしての人気も高い猫ですが、繁殖力の強さから、ひとたび増えつてしまうと騒音やふん尿、器物破損といった問題を引き起こしてしまうこともあります。

「市内に、猫がよく捨てられる公園がありました。猫がたくさんいる環境なら生きていけるだろう、と捨てに来る人が後を絶たず、どんどん数が増えてしまつたんです。その猫たちを救つてあげたいと思つて、と始めたのがこの会です」

会を結成してから独自に公園を調査したところ、その数は160匹以上。年齢や不妊手術の有無なども調べました。

「その公園内だけでなく、市内を中心とした野良猫のTNRにも並行して取り組みました。市外

から捨てられる、または移動してくるケースがあるため、近隣市まで範囲を広げてのTNRを行うこともあります」

努力の甲斐があり、2015年から毎年300匹以上あつたTNRの実施数が、2019年度には200匹台、2021年度には100匹台と年々減少しています。

「野良猫の数は徐々に抑えることができているですが、今でも定期的にかかる問題があります。それは、猫を不妊手術をせず無計画に飼育し続けることで数が増えていく、『多頭飼育崩壊』です」

年に2〜4回出産することができる猫は、1組が1年後には20匹以上、2年後には80匹以上に増える可能性があることから、多頭飼育崩壊が起こりやすいベツトといわれています。

「これは、室内飼いに限つた話ではありません。『かわいそうだから、かわいいから』と野良猫に餌をやり続け、気付けば面倒を見切れない程の数になつていたというケースもあります。我々が訴えたいのは、不妊の重要性。誰もが猫を好きになくわけではありません。外で猫が増えてしまうことは、その近隣で生活する人へ

の迷惑につながつてしまします。会では、これらは人の生活環境に関わる『環境問題』だと考え、活動に取り組んでいます」

会が活動の中で保護した猫全ての面倒を見続けることは難しいため、毎週里親会を開催しています。

「ボランティアで行っているため大変なこともあります。猫たちが里親に引き取られて、その家族と一緒に幸せになることが一番のやりがいです。猫は適切に飼育すれば問題が起きにくい動物で、人の生活を豊かにしてくれる存在。無責任な餌やりや飼育放棄はせず、不妊手術をするなどして適切に飼うことで、人も猫も幸せに暮らしていければいいなと思つています」



智光山公園で行われている里親会

\*TNR…Trap/捕獲し Neuter/不妊手術を行い Return/元の場所に戻す活動のこと